

Kintsugi Kit

取扱説明書

金継とは割れたり欠けたりした陶磁器を、漆を使って接着し、金や銀などを使って蒔絵の技法で修理する方法です。金繕いとも呼ばれます。主に茶道具の世界で発達して、壊れた道具を再生して大切に使う心が伺われる日本独特の技法です。修理した部分も道具の景色として珍重され、骨董品としての価値もあります。漆はウルシノキの樹液で、日本では9000年前から天然の接着剤として、また塗料として利用されてきました。

金継セットを使った、欠けたり割れたりした陶磁器の修理方法を説明します。

セットの材料説明

筆 形状の異なる数種の筆。
生漆 接着に使う糊漆や、錆を作るときに使用します。
絵漆 金粉を蒔く下地に塗ります。
砥之粉 生漆と練り合わせて錆を作るのに使用します。
テレピン 漆を希釈したり、除去したりする際に使用します。
菜種油 漆の付着した筆を洗浄します。筆先に含めて保管します。
金粉 簡易セットでは代用金粉を使用します。
真綿 金粉を蒔き付けるのに使用します。
研磨紙 漆の研ぎに使用します。
絵皿
プラスチックヘラ
エポキシパテ
マスキングテープ
綿棒
竹串 はみだした錆や糊漆などをこそげ取るのに使用します。
ラテックス手袋 漆を扱ったり、研いだりする際には必ず着用して下さい。
漆かぶれの危険性があります。

他に必要な材料

2液型エポキシ接着剤
ウェス、ティッシュペーパー
水を入れる小皿
カッターナイフ
ムロ 木製の箱が適しているが、ない場合にはダンボール箱やプラスチックケースでも代用可能。内側を湿らせたり、塗れた布を下に敷いて内部の湿度を上げます。

金継工程

接着
割れた断面が汚れている場合には、綿棒にアルコールを付けて拭き取ります。

二液型エポキシ接着剤を等量出し、練り合わせます。接着剤を断面に隙間なく塗り付けます。部品を接着して、はみ出た接着剤を鹿で掻きとり、テレピンをつけたウェスで良く拭き取ります。マスキングテープで固定して、硬化させます。硬化後、はみ出した接着剤をナイフで削り取ります。

欠損部の補修

エポキシパテをカッターナイフで必要分量を輪切りにして、練り合わせ、欠損部に埋めます。十分に硬化したら、カッターナイフで削り、研磨紙でみがいて形状を整えます。
砥之粉全体が湿る程度に水を混合し、これに生漆を等量混ぜます。パテの上に錆を付けてもとの形状に戻します。十分に硬化したら研磨紙で水研ぎして形状を整えます。水研ぎの際にも手袋を着用して下さい。漆かぶれの危険性があります。

下塗りと欠けの補修

接着剤、エポキシパテ、錆で埋めた部分に弁柄漆を塗って、表面を滑らかにします。厚く塗りすぎると縮むおそれがありますので、注意してください。乾かす際にはムロに入れてください。
十分に硬化したら研磨紙に水をつけて表面を研磨します。

代用金粉仕上げ

粉を蒔き付ける部分に弁柄漆を塗り付けます。均一の厚みに塗って下さい。真綿を使って粉を蒔き付けます。弁柄漆を塗った部分に粉を置くように優しく付着させてください。全体に粉が付着したら、ムロに入れて硬化させます。十分に硬化したら粉を付けた真綿で再度磨いて仕上げます。周囲の余分な粉を拭き取ります。

粉固め

生漆を絵皿に出し、テレピンで希釈します。筆で粉を蒔いた部分にそれを塗り付け、ウェスやティッシュペーパーで良く拭き取ります。ムロに入れて硬化させたら完成です。

筆の洗い方と保管方法

筆先に菜種油を付け、絵皿の上で軽くたたいて漆を洗い出します。漆が出なくなるまで何度も繰り返します。筆先に菜種油を含ませて保管します。漆を使う際には筆先の油をウェスで拭き取ります。漆を筆に付けて、油を洗い出しウェスで拭きとる工程を3回繰り返します。

漆が手についた時の除去方法

漆が皮膚に付着した場合には、速やかに漆を除去してください。菜種油を付けたウェスでよく拭き取り、その後石鹸を付けてぬるま湯で洗い流します。漆を皮膚に付着したままにするとかぶれの危険性が高くなります。皮膚に異常を感じた場合にはただちに使用を止め、医師の指示に従って下さい。

レクチャービデオなど詳細は下記URLまでアクセスして下さい。

www.arts-and-crafts.jp